

2013 人の集まる 村づくり



新年あけましておめでとうございます。
2013年の年頭に当たり、
大楽勝弘村長、前田三郎村議会議員、奥貫洋教育長の3人に
2012年を振り返っていただくとともに、
これからの村づくりや夢について
語っていただきたいと思いますので、
よろしくをお願いします。(司会あいさつ)

復興に取り組んだ 2012年

——二〇一二年は復興元年と位置づけられ、国や県においてさまざまな施策が展開されましたが、村の二〇一二年を振り返ると、村長さんにとってどのような一年だったのでしょうか。

村長 二〇一二年は東日本大震災、原子力発電所事故から一年ということで、復興の年でした。鮫川村は幸い、地震による大きな被害はありませんでしたが、原発事故によって村民の皆さんは不安な毎日を送っており、大きな負担に感じていると思います。皆さんと一緒に一日でも早く原発事故前のきれいな鮫川村に戻さなければいけないという思いで、一年間取り組んできました。



大楽勝弘 村長
Katsuhiro Dairaku



前田三郎 村議会議員長
Saburo Maeda



奥貫 洋 村教育長
Hiroshi Okunuki

風評被害以外にも、四月から牛のえさの基準値が厳しくなったことで牧草を与えられなくなり、これから復興に向けて動き出そうとしているときに、大きな不安材料ができてしまいました。それに対応し、村では、畜産農家の生産意欲を欠かないために、独自で乾燥牧草の配布を始めました。こうしたことで、少しでも不安を和らげることができたと思います。また、農産物の放射性物質検査を強化し、食の安全の確保にも努力してまいりました。さらに秋には、米の全量全袋検査も実施され、鮫川村の米は安全であることが立証されました。

——議長さんはどうでしたか。
議長 やはり震災からの復興、原発問題の一年でしたが、ここで地域経済を疲弊させてはいけないという思いでした。復旧復興事業については、ある程度は解決できたと考えています。その中で、行政に住民の参加を得られたことに感謝しなければなりません。行政、各種団体、そして住民が一致団結することが村の復興につながるのだと思います。また、六月には、開かれた議会、信頼される議会を目指し、議会改革特別委員会を設置しました。さらに、議会の動きをいち早く村民に伝えるため、議員が主体となった「議会だより」の編集に取り組みました。村議会にとって、変化の年となりました。

——子どもたちを見ると、よい話題が多かった一年でした。中体連や小学校陸上競技大会、スボ少、音楽関係、各種作文コンクールなど、さまざまな分野で近年にないよい成績を収めました。さらに、「鮫川村の子どもたちは落ち着いていよう」というお褒めの言葉をもらうこともあり、いい雰囲気の中で授業に取り組んでいることがよかったです。

村民の知恵が結集した 新しい復興計画を

——二〇一三年のスタートに当たり、これからの村づくり、将来の夢や目標などについてお話をいただきたいと思っております。村長さんは、村政をあずかる立場として、どのように考えていますか。
村長 これからの村づくりと



「自然環境を生かした
鮫川風のままな暮らし方」を
実現していきたいと思えます。(大樂)

して、先決なのは放射線量の低減化。いかに村民の不安をなくし、村民の健康と安全な暮らしを守るかが重要です。そのために、ホールボディカウンターによる検査や除染活動を進めていきます。

また、「まめで達者な村づくり事業」が今年で十年目となります。大豆の連作障害が課題となっていますが、生産者の協力を得ながら、引き続き推進していきたいと考えています。

さらに、今年も第三次鮫川村振興計画の検証と第四次振興計画策定準備の時期になります。第三次振興計画は、多くの村民の皆さんの知恵を生かした素晴らしい計画でした。これまで、社会全体として、ぜひいたく暮らし、楽な暮らしを安易に求めすぎた面があると思います。これからは、周りの自然を大切にしながら暮らし方が重要になってくるでしょう。「自然環境を活か

した鮫川風のままな暮らし方」を実現していきたいと考えています。そのために、第三次振興計画を継承しながら、村民の皆さんの知恵が結集した新しい振興計画を策定したいと考えています。

村長さんの考える「自然環境を活かした鮫川風のままな暮らし方」には、農業振興は欠かすことができないと思いますが、その点についてはいかがお考えでしょうか。

村長 中山間地域でできる農業は限られます。世界と競争するためには、大規模農業でないとコストダウンは図れませんし、地方の農業の役割は何なのかを明確にしていかなければいけないでしょう。

議長 定年後の人たちに、農業に従事してもらえないような作物の選定も課題の一つだと思います。ほかにも、後継者不足などによる耕作放棄地の問題もあります。行政と農業団体、地域の連携が重要なポ



若い世代が定住するために、
生活基盤の整備、医療の充実が
求められます。(前田)

イントになってくるでしょう。

教育長 農家さん自身が「農業は立派」だということを感じ、生きがいや適切な収入を得られるなど、農業に対して喜びを感じられることが必要だと思えます。そういう親の姿を見て、まねをしたい子どもも本気になるのではないのでしょうか。

議長 市場を確保することで、安定的な収入を得ることができれば、農家減少を食い止められるのではないのでしょうか。

現在では、スーパーなどで季節に関係なく作物がそろい、「旬」がなくなっています。これが野菜の消費減少の要因ではないのでしょうか。鮫川村のような小規模な農業では、

「安心・安全」ということで売っていく必要があると思えますね。

生活基盤の整備と
教育環境の充実

議長さんは今後の村づくりをどうお考えですか。

議長 生活基盤の整備が必要だと思えます。ここに住みたい、住んでよかったと思える村にしていかなければいけません。例えば、冬期間の道路の凍結対策。そして、村民が一番心配に思っているのは、医療面ではないかと思えます。重症的な急患などの応急処置にも対応できる医療機関の充実を進めていかなければいけないのではないのでしょうか。この問題を解決しないことには、若い世代の定住は難しいと思えます。

村長 医師を確保するために、子どもの教育面の充実が



これからの村づくりや夢などを語った新春対談

必要になるでしょう。医師が村に来るとき、自分のことよりも子どものことを考えます。子どもにどういった教育環境を与えられるかが重要ではないでしょうか。

議長 子どもの教育環境は、若い世代の定住を図る上で重要ですね。

現在は、親をみなければいけないという責任感を持つ若い世代の人たちがいますが、この先、親がいなくなったり、子どもの教育を考え離村していく家庭があるのではないかと不安もあります。

教育長さんは、これからの教育をどうお考えですか。

教育長 学んで理解できる楽しい授業改善をしていきたいと考えています。

これからは、自分の言葉で分かりやすく説明し、まとめの能力が重要になっていきます。そういう意味で、国語や英語などの言葉の教育は大切だと感じています。取りかかるとしては、読書が効果的でしょう。保護者の理解を得ながら、読書が好きという子ども、本を読む家庭を増やしていきたいと考えています。

また、「学校を卒業すれば勉強は終わり」ということで

はありませぬ。自分で問題を見つけ、解決できる能力を養えるような学びの場が必要だと思えます。図書館を中心に、高齢者から子ども、学生が気軽に集えればと考えています。

村長 やはり子どもが「本を読むのが楽しい」「勉強が楽しい」と思えることが一番なのでしょうね。楽しくないと頭に入らないものです。いかに分らないことが分かるようになるか、その楽しさを覚えさせられるような教育環境が必要ですね。

夢を実現するために
村民が手を取り合つて

村長 私の最終的な夢は「人の集まる村」です。その夢の実現のために、大勢の人が意見を出し合いながら取り組んでいけたらと思います。

何よりも、鮫川村の自慢はきれいな水と空気。都会など



自分で課題を見つけ、
解決できる能力を養えるような
学びの場が必要です。(奥貫)

へ行って帰ってきたとき、つくづく鮫川村はいい所だと感じます。自分たちが汚さなければ、汚れないこの自然は宝です。今後、しっかりと除染を進め、原発事故前の美しい村を取り戻したいです。子どもたちが安心して作物を食べ、安心して住める地域にみんな戻していきたいですね。

議長 村民の一人一人が努力して力を伸ばし、安心安全で住みよい村づくりを夢に描いてもらいたいですね。村民がそういう気持ちで進んでいけば、決して夢ではなくなると思えます。そういう考えのもとに進んでいきたいです。

また、議会としては行政と住民のパイプ役として、住民の要望や期待などを素早く市政に反映させることが重要と考えます。議員自らが地域に入り、村民の意見を市政に提案していきたいと思えます。

教育長 一人一人が、人に言われるのではなく自分で正し

く判断し、それに向かって協力して進んでいく村づくりがいいですね。小さい村だからこそ、手と手を取り合つて進んでいきたいものですね。

新しい年、二〇一三年が鮫川村にとって飛躍の一年になることを願って、対談を終わりたいと思えます。本日はありがとうございました。